

【研究名】:愛媛県でのカンジダ感染症治療の現状調査

【目的】

深在性真菌症は、最近の医学の進歩や人口の高齢化などにより、患者さんの免疫の低下する機会が増えたため、その治療は臨床上重要となってきています。21世紀にはいって新規抗真菌薬の登場や診断技術の進歩などにより、その診断・治療効率は高められつつありますが、その治療奏功率は決して高くはないのが現状です。近年、カンジダ感染症治療に関して抗真菌薬の不適切や過度の使用を是正しカンジダ感染症の予後を改善することを目的に、抗真菌薬の適切な使用およびカンジダ感染症の診断をまとめたチェックリストが公表されました。しかし、このチェックリストの有用性に関しては十分な検討がなされていないのが現状です。

そこで、本計画案ではカンジダ感染症治療チェックリストの有用性を評価するため、愛媛県下の病院でカンジダ感染症治療症例に対し、チェックリストの遵守状況を調査します。

【研究意義】

チェックリストの遵守状況を調査しその有用性が証明されれば、カンジダ感染症治療の標準化が期待できます。また、薬剤師による抗真菌薬投与の監視を強化でき、個々の施設のみならず愛媛県全体で抗真菌薬適正使用を推進することができます。

【研究内容】

愛媛県下7病院(県立今治病院、県立新居浜病院、愛媛労災病院、愛媛大学医学部附属病院、済生会西条病院、市立大洲病院、松山赤十字病院)で各施設のカンジダ感染症治療状況を調査します。

【研究期間】

2013年8月～2015年7月までを予定しています。

【患者さんの個人情報の管理について】

厚生労働省「疫学研究に関する倫理指針」に基づいて患者さんのプライバシーを守るよう努めています。結果の発表や出版に際しては個人が特定できるような情報は掲載しませんので、患者さんの不利益となることはありません。

【研究実施体制】

愛媛大学医学部附属病院 薬剤部

教授 荒木 博陽

講師 田中 亮裕

副薬剤部長 田中 守

薬剤師 渡邊 真一

薬剤師 宮下 智尋

【研究成果】

「ACTIONs Bundle」のチェック項目のうち、2項目以上遵守していなければ予後不良である傾向が認められました。